

■ 『IT NEWS LETTER』 2026年6月号

～ ITの分からないことも、まずは一歩から ～

(1) パスワードだけでは守れない時代に

近年、企業を狙った不正アクセス被害が増加しています。
その多くは、システムの脆弱性ではなく、パスワードの漏えいや使い回しが原因となっています。

どれだけ複雑なパスワードを設定していても、
フィッシング詐欺や情報漏えいによって
第三者に知られてしまう可能性があります。
また、同じパスワードを複数のサービスで利用している場合、
一つのサービスから漏えいした情報が他のサービスへの
不正ログインにつながることもあります。

そこで重要になるのが、『**二要素認証 (MFA)**』です。

二要素認証とは、パスワードに加えて
スマートフォンの認証アプリや通知機能などを利用し、本人確認を行う仕組みです。
仮にパスワードが漏えいした場合でも、不正ログインを防ぐ効果が期待できます。

現在では、Google WorkspaceやMicrosoft 365をはじめ、多くのクラウドサービスで二要素認証が標準機能として提供されています。

比較的簡単に導入できる対策でありながら、セキュリティ向上の効果は非常に高いとされています。

企業の情報を守るためには、強固なパスワード設定だけでなく、「**万が一漏れても守れる仕組み**」を整えておくことが重要です。今一度、自社の認証設定を見直してみてもいいかもしれません。



(2) 生成AIは「もう一人のアシスタント」

生成AIは、文章作成や情報整理、アイデア出しなど、日常業務を支援する身近なツールとして急速に普及しています。

例えば、

- ・メールや案内文の作成
- ・議事録や会議メモの要約
- ・企画書や提案書のたたき台作成
- ・情報収集やアイデア出し

といった業務では、生成AIが「**もう一人のアシスタント**」
として業務をサポートしてくれます。

これまで時間をかけていた作業を効率化できるだけでなく、
担当者の経験や知識だけに頼らず、多様な視点やアイデアを得られることも大きなメリットです。

特に人手不足が課題となる中小企業においては、限られた人員でより多くの業務を進めるための
有効な手段として注目されています。

現在は、多くの中小企業にとってまだ活用の入り口の段階ですが、今後は相談対応を支援するAIや、
特定の業務に特化したAI、さらには社内に蓄積された情報を活用するAIなどへ発展していく可能性があります。

そのためにも、まずは日々の業務の中でAIに触れ、「**どのようなことができるのか**」「**どのような業務に活用できるのか**」を**体験してみる**ことが大切です。

小さな成功体験の積み重ねが、将来的な組織全体のAI活用につながっていきます。

生成AIは人に代わるものではなく、**人がより付加価値の高い仕事に集中するためのパートナー**です。まずは身近な業務から活用を始め、AIを上手に使いこなせる組織づくりを進めていきましょう。



現在、二要素認証の導入支援や情報セキュリティ対策、生成AI活用に関するご相談、社員向けIT・AIリテラシー研修などを行っております。

「セキュリティ対策を見直したい」「生成AIを業務に活用したい」「ITリテラシーを向上させたい」といった内容で大丈夫です。ご相談は無料ですので、現状に合わせた取り組みについて、お気軽にご相談ください。

生成AIなどの新しい技術が身近になる一方で、セキュリティ対策の重要性も高まっています。まずはできることから取り組み、**安全に活用していくことが、これからのIT活用の第一歩ではないでしょうか。**

IT 顧問

よろず相談から業務支援まで
IT専門家が寄り添いご対応いたします。

IT NEWS LETTERへのご要望、ご質問は、it_project@k-taxpartners.co.jp まで。